

— 施策の展開 —

施策の展開

1 マーケットインの視点で生産力を強化

(多様な商品の供給で県産畜産物の販路が拡大)

- ・県では、畜産物を多様な商品形態で供給することにより、新たな需要の開拓を推進しています。
- ・近年、コロナ禍などにより内食需要が増加する中、家庭での調理や小売店での陳列が容易な、小分けの商品が求められています。
- ・令和4年度は、「はかた地どり」を扱う食鳥処理施設への小分けパックの自動包装設備の導入を支援しました。
- ・この結果、「はかた地どり」の取扱店舗が増え、販路拡大が進みました。
- ・また、県産畜産物を24時間直接消費者に販売できるように、食肉流通業者に対し、冷凍自動販売機の設置を支援しました。



食鳥処理施設に導入された自動包装設備



県ブランド畜産物の冷凍自動販売機

(天然マダイの一次加工で、飲食店への販路が拡大)

- ・県では、消費者や飲食店のニーズに対応するため、漁獲量の多い天然マダイの加工品の開発や販路拡大に取り組んでいます。
- ・令和4年度は、東京や県内で開催された商談会に出展し、一次加工品のPRを行いました。
- ・この結果、バイヤーから天然のマダイであることや骨抜き商品であることが高く評価され、33店舗の飲食店と取引が始まりました。
- ・飲食店からは、「冷凍でかつ骨抜きのため扱いやすい」、「天然物が年間通して手に入るため、定番メニューとして提供できる」と高い評価を得ています。



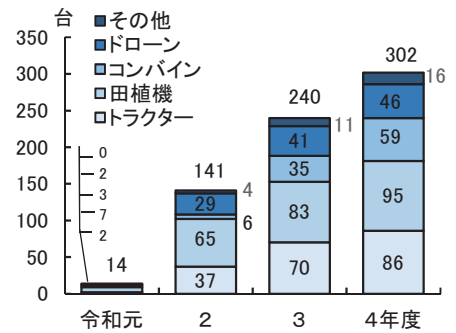
加工の様子（骨抜き作業）



天然マダイの一次加工品（冷凍骨抜き）を活用した飲食店のメニュー

(水田農業でのスマート農業機械の導入を促進)

- ・県では、水田農業の生産の効率化や省力化を図るため、ロボットトラクター、ロボット田植機、防除用ドローンといったスマート農業機械の導入を支援しています。
- ・令和4年度は、収量センサーを備えたコンバイン24台、防除用ドローン5台など、55経営体が合計62台のスマート農業機械を導入し、スマート農業機械の導入台数は累計で302台となりました。



スマート農業機械の導入台数（累積）

資料：水田農業振興課調べ



ドローンによる農薬散布

トピック

○ 大豆新品種「ふくよかまる」の本格導入開始

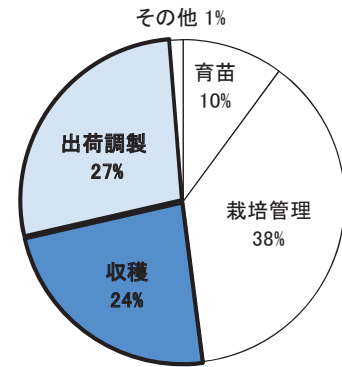
- ・福岡県は全国有数の大豆産地です。県産大豆は品質を高く評価されており、全国で豆腐や豆乳に加工して使用されています。
- ・こうした中、県では県産大豆の安定供給を図るため、新品種「ふくよかまる（品種名：ちくしB5号）」を新たに開発しました。
- ・「ふくよかまる」は、現行品種の「フクユタカ」と比べ、収量が1割程度多く、加工した際の甘みやコクといった食味が良好で、令和4年度から本格的に導入を開始し、789haで栽培されました。
- ・5年2月15日には、大豆加工メーカーや卸売業者、生産者を招いて「ふくよかまる」のお披露目会を開催し、ブランド化に向けたロゴマークの発表と「ふくよかまる」を使った豆乳・豆腐・納豆の紹介・試食を行いました。
- ・今後、8年度までに県内で栽培される全ての大豆を「ふくよかまる」に切り替えていくとともに、県産大豆の安定供給とロゴマークを活用したブランド強化を進めます。



「ふくよかまる」ロゴマークをPRする服部知事

（「あまおう」の収穫・出荷調製作業の省力化に向け、ロボット開発を加速）

- ・ 県を代表するブランド農林水産物であるいちご「あまおう」は、消費者からのニーズが高く、生産拡大が求められていますが、生産者の高齢化や労働力不足が課題となっています。
- ・ 県では、令和4年度から、労働時間の約5割を占める収穫および出荷調製作業の省力化を図るため、民間企業と連携し、収穫ロボットや出荷調製ロボットの実用化に向けた取組を開始しました。
- ・ 民間企業が開発する収穫ロボットが「あまおう」の収穫適期を判断し、果実を傷つけずに収穫できるか、また、出荷調整ロボットが規格に応じて選果し、果実を傷つけずにパック詰めをできているかといった評価試験を行っています。
- ・ こうした取組を通じて、7年度のロボットの実用化を目指しています。



いちご生産において
各作業が労働時間に占める割合

資料：農林水産省「農業経営統計調査」



出荷調製ロボット

写真：株式会社安川電機提供

（農地の大区画化や集約化で効率的な営農を実現）

- ・ 県では、農作業の効率化を図るため、担い手が行う畦畔除去による農地の大区画化や、地域が一体となって行う農地中間管理事業を活用した集約化を推進しています。
- ・ 令和4年度は、筑紫野市の農事組合法人で、18区画に分かれていた農地を畦畔除去により7区画とするなど（1区画の平均面積：24a→62a）、県全体で34件の大区画化・集約化の取組を支援しました。
- ・ これにより、米・麦・大豆の栽培管理の効率化とあわせて、草刈りといった畦畔管理の負担軽減に繋がっています。

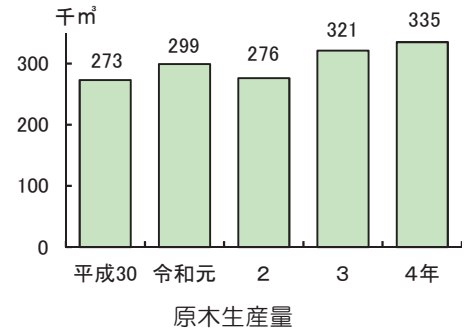


畦畔除去による農地の区画拡大

(県産木材の生産量は直近5年で最高の335千㎡)

- ・県では、県産木材の供給力を強化するとともに、森林資源の循環利用を図るため、主伐^{*}経費の助成や高性能林業機械の導入支援により、主伐を推進しています。
- ・令和4年は、これらの取組に加え、円安などの影響を受け、国産材の需要が高まったことから、主伐が積極的に実施され、原木生産量は取組を始めて以来最高となる335千㎡になりました。

※主伐：一定の林齢に生育した立木を材木として販売するために伐採すること。



資料：林業振興課調べ



主伐による原木生産の現場

(水産資源の持続的な利用に向け親アワビを保護する取組を開始)

- ・水産資源を持続的に利用するため、漁業者は自主的な資源管理に取り組んでいます。しかしながら、水産資源は漁獲や環境変化により変動するため、その状況に応じて資源管理の方法を見直す必要があります。
- ・令和4年度は、13団体が県の指導のもと、休漁日の設定や小型魚を海に戻すといった資源管理の見直しを行いました。
- ・そのうち、北九州市の藍島では、アワビの資源を管理するため、これまで行ってきた禁漁期間の設定や漁獲サイズの制限に加え、4年度からは、産卵用の親アワビを確保するため、設定した海域に標識を付けた大型の貝を放流し、これを保護する取組を始めました。



標識の付いた親アワビ



親アワビに付けた標識

トピック

○ 原油価格・物価高騰対策

- ・長引くコロナ禍の中、原油価格の高騰や円安の進行、ロシアのウクライナ侵略の影響などにより、農林水産業では、肥料をはじめとする生産資材や家畜飼料の価格が高騰するとともに、輸入木材の減少に伴う、県産材需要の大幅な拡大が見込まれました。
- ・このような農林水産業を取り巻く状況の変化に緊急に対応するため、県では農林漁業者の経営継続を支援するとともに、本県農林水産業の生産力強化につながる取組を進めました。

(肥料価格の高騰に対する支援)

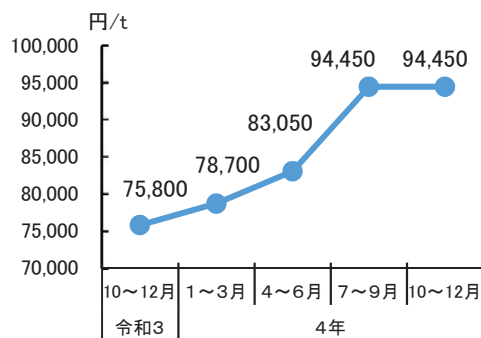
- ・県では、肥料コストの上昇による農業経営への影響を緩和するため、土壌診断結果に基づく施肥や、たい肥・緑肥の活用といった化学肥料の低減に向けた取組を、3つ以上実施する農業者に対して、国の「肥料価格高騰対策事業※」に加え、県独自の助成を実施しました。

※肥料価格高騰対策事業：

肥料価格が急騰したことによる農業経営への影響を緩和するため、たい肥の利用など化学肥料の低減に向けた取組を2つ以上行う農業者に対し、肥料コスト上昇分の一部を支援する国の事業。

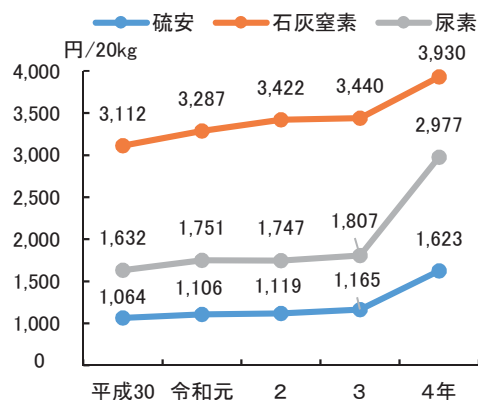
(飼料価格の高騰に対する支援)

- ・県では、飼料価格の急騰の影響を受けた畜産農家の経営継続を支援するため、飼料の購入経費の一部を助成しました。
- ・また、飼料の自給率向上を図るため、牧草類や子実用とうもろこし、飼料用米の収穫機械や飼料用粉砕機の導入を支援しました。



家畜の配合飼料の価格

資料：全国農業協同組合連合会資料より作成



化学肥料の価格

資料：農林水産省「農業物価統計」
※令和4年概数



レンゲ（緑肥作物）の利用



導入された自給飼料の生産・加工機械

(燃油価格・電気料金の高騰に対する支援)

- ・水田農業では、カントリーエレベーターなどの米麦の共同乾燥施設で使用する灯油の価格が上昇したことを受け、施設を利用する農業者の負担軽減や共同乾燥調製施設の安定的な運営を支援するため、JAや施設利用組合等に対し、乾燥に必要な燃料費の一部を助成しました。
- ・園芸農業では、長期的な省エネルギー化を推進するため、効率的に作物の生育を促進できる資材や装置、長期間使用可能なハウスビニール資材の導入を支援しました。
- ・漁業では、船底に付着したカキなどを除去することで、漁船で使用する燃料の約2割を削減できることから、これに必要なまき揚げ施設の整備を支援しました。
- ・また、土地改良区が管理する揚水機場などの農業水利施設では、維持管理費の4割を占める電気料金が高騰していることから、電気料金上昇分の一部を助成しました。



炭酸ガス局所施用システム



まき揚げ施設



揚水機場

(リスクに強い体制への転換に向けた供給力強化対策)

- ・小麦や木材の多くを輸入に頼る中、輸入小麦の価格高騰や輸入木材の供給減少が見込まれたことから、県産の小麦や木材の供給力強化に取り組みました。
- ・県産小麦の生産拡大に向け、農地の団地化や湿害対策、土壌診断を進めたほか、作業の効率化・省力化につながる農業機械の導入を支援しました。
- ・また、輸入小麦の代替となる県産米粉を使用した新商品の開発・販売を支援しました。
- ・林業では、県産木材の生産力を強化するため、森林組合や製材事業者に対して大型の高性能林業機械の導入や製材施設の整備を支援しました。



乗用型防除機

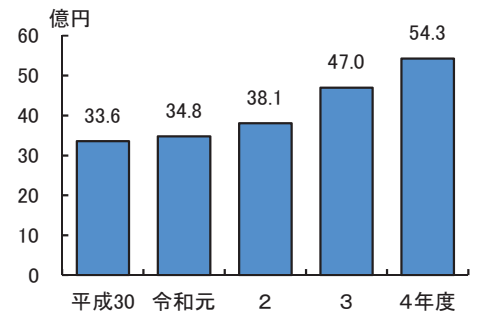


大型の高性能林業機械

2 「選ばれる福岡県」に向けてブランド力を強化し、販売を促進

(農林水産物の輸出額は54.3億円で過去最高を更新)

- ・県では、県産農林水産物の海外への販路拡大及び海外市場でのブランド力強化を図るため、販売促進フェアの開催や商談会への出展支援、輸出向けの生産体制構築に取り組んでいます。
- ・令和4年度は、香港向け需要が増加したことにより県産農林水産物の輸出額は前年比約15%、7.3億円増加の54.3億円となり、過去最高を更新しました。



県産農林水産物の輸出額

資料：輸出促進課調べ

(ニューヨークの有名レストランや日本茶専門店、八女茶をPR)

- ・近年、米国では日本茶の需要が拡大しており、今後、八女茶の輸出拡大を図るには、米国の残留農薬基準に対応した栽培管理や認知度の向上、販路の拡大といった取組が必要です。
- ・このため、県では、米国の基準に適合した栽培に取り組む生産者を対象に、残留農薬分析にかかる経費を助成しました。
- ・また、ニューヨークの日本茶専門店や、ミシュランガイド星付きレストランにおいて、インフルエンサーや飲食店関係者を招いた八女茶と食事のペアリング試食会を開催することで、八女茶の魅力を広く発信し、認知度の向上を図りました。
- ・加えて、ニューヨークのバイヤーを講師に迎え、生産者に向け、現地での日本茶ビジネスの可能性を紹介するオンラインセミナーとウェブ商談を実施し、販路拡大に取り組みました。



NY 日本茶専門店での
八女茶フェア



NY 一つ星レストランでの
八女茶ペアリング試食会

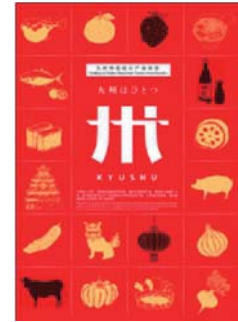
(九州・山口各県や経済団体と連携して、中国で県産酒をPR)

- ・県では、九州地域戦略会議*の一員として、九州・山口各県、経済団体と連携し、農林水産物・食品の輸出拡大に取り組んでいます。
- ・令和4年度は、中国上海で開催された「第5回中国国際輸入博覧会」に、県内4酒蔵の県産酒を出展しました。
- ・博覧会では、九州ロゴマークを前面に打ち出したパンフレットを活用し、PRや会場での試飲を行いました。

※九州地域戦略会議：九州各県、山口県及び（一社）九州経済連合会で構成。「九州はひとつ」の理念のもと、九州独自の政策に取り組んでいる。



第5回中国国際輸入博覧会



商談会専用パンフレット

(なし「玉水」の早期普及に向け、産地と連携)

- ・県が平成30年に育成したなし品種「玉水」は、本県の主力品種である「幸水」に比べ、糖度が2度程度高く、収穫期が5日程度早いことが特長です。
- ・県では、この「玉水」を早期に普及させるため、生産者や関係機関と連携し、生育特性の把握や病害虫防除体系の確立、早期成園化*技術の開発といった取組を進め、令和4年度に初出荷を迎えました。

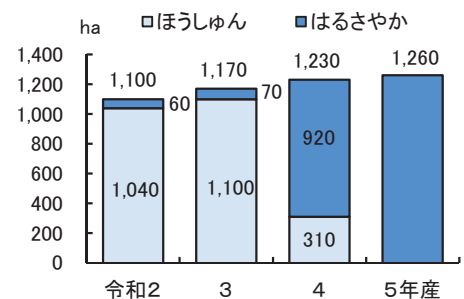
※早期成園化：苗木の定植後、収入がその年に投入した肥料・農薬といった経費を上回るようになった樹齢に達するまでの未成園期間を栽培技術によって短縮すること。



なし「玉水」

(ビール大麦を県育成品種「はるさやか」に全面切り替え)

- ・県では、現行のビール大麦品種「ほうしゅん」に比べ、病気に強く、多収で、麦芽品質に優れる「はるさやか」を平成30年に開発しました。
- ・「ほうしゅん」から「はるさやか」への品種切り替えを進めるため、県内のビール大麦産地における試験栽培や、ビール会社による醸造試験に取り組み、令和5年産では県内全ての産地で切り替わりました。

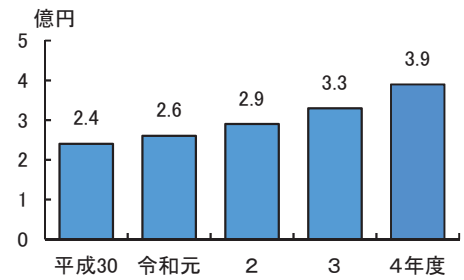


ビール大麦の品種別作付面積

資料：水田農業振興課調べ

(県産食材の取扱額が3.9億円まで拡大)

- ・県では、東京と大阪に「福岡よかもん・よかとこプロモーションセンター」を設置し、首都圏及び関西圏のホテルやレストランに対する県産農林水産物のPRに取り組んでいます。
- ・令和4年度は、イタリア料理や日本料理といった各ジャンルを代表する有名シェフの店舗で、県産食材を使ったメニューを提供する「福岡フェア」を開催しました。
- ・また、これら有名シェフを講師に招き、首都圏・関西圏のシェフを対象に、県産食材の素晴らしさを広くPRするセミナーを開催しました。
- ・加えて、シェフやバイヤーの産地招へいや食品サンプルの提供により、県産食材を使ったフェア開催を働きかけました。
- ・こうした取組の結果、県産食材の取扱額は前年度に比べ19%増の3.9億円となりました。



県産食材の取扱額

資料：福岡の食販売促進課調べ



有名シェフによる「福岡フェア」で提供されたメニュー

トピック

○ アンテナレストラン「麴町なだ万 福岡別邸」が東京にオープン

- ・令和5年1月、東京都千代田区にある県のアンテナレストランが、新たな運営事業者を迎え、「麴町なだ万 福岡別邸」としてオープンしました。
- ・このアンテナレストランでは、懐石料理をはじめ、「博多和牛」や「はかた地どり」の御膳といった、県産食材をふんだんに使った料理に加え、八女茶や県内酒蔵のお酒を提供しています。
- ・また、店内壁面には大川組子や久留米餅、博多織、小倉織が、テーブルと椅子には県産のセンダンが使用されており、空間としても福岡県の魅力を伝える工夫が施されています。
- ・今後、このアンテナレストランを核として、「福岡の食」をはじめ、伝統工芸品といった物産や観光情報、文化など、本県が誇る様々な魅力を発信していきます。



店舗エントランス



ディナーで提供する懐石メニュー

（「福岡の食と酒公式アプリ」の配信を開始）

- ・県では、県産酒と県産水産物の情報を一体的に発信するため、「福岡の食と酒公式アプリ」を、令和4年7月から配信しています。
- ・このアプリでは、「福岡の地酒・焼酎応援の店」や「ふくおかの地魚応援の店」の検索に加え、酒蔵や県産水産物の生産地の情報や県産水産物を使った料理のレシピとその料理に合う県産酒を紹介しています。



アプリアイコン



紹介ページURL:

<https://fukuoka-shokutosake.jp>



画面イメージ

（「福岡いただきマルシェ」で県産農林水産物をPR）

- ・県では、関係団体と構成する福岡県農林水産物ブランド化推進協議会を通じて、県産農林水産物の認知度向上やブランド化を推進するため、イベントや販売会を開催し、PR活動を実施しています。
- ・令和4年度は、3年ぶりの協議会主催イベントとして、THE OUTLETS KITAKYUSHU（北九州市八幡東区）で「福岡いただきマルシェ」を開催しました。
- ・このマルシェでは、本格販売開始から20年を迎えた「あまおう」の配布や、「あまおう」を使用したスイーツの販売を行い、約1万人が来場しました。



マルシェ会場における
知事による「あまおう」配布

トピック

○ 「博多あまおう大使」今田美桜さんとともに販売開始20周年をPR

- ・県では、「あまおう」の本格販売開始から20年となることを記念して、福岡県出身の俳優である今田美桜さんを「博多あまおう大使」に任命しました。
- ・令和4年11月15日に東京・銀座で開催した就任式やプレゼント企画をはじめ、テレビCMやSNSを活用したダンス動画の配信により、「あまおう」の魅力を全国に発信しました。



「博多あまおう大使」の今田美桜さん

○ 「金のめし丸」県産米の新CMで服部知事がPR

- ・県では、米の食味ランキングにおいて、3年連続で最高位の「特A」評価を獲得した「元気つくし」をはじめ、「夢つくし」や「ヒノヒカリ」といった県産米の消費拡大に向けた取組を支援しています。
- ・令和5年1月からは、県産米のトップセールスとして、服部知事がJAグループ福岡の「金のめし丸」県産米の新CMに出演し、県産米の美味しさを広く県民の皆様へPRしました。



県産米の美味しさをPRする服部知事

（「福岡の八女茶」の魅力をPRするイベントを開催）

- ・令和5年に発祥600年を迎える八女茶の魅力をPRするため、5年1月13日から2月12日の1か月間、関係機関で構成する「福岡の八女茶」茶会実行委員会が、博多駅に隣接する商業施設でイベントを行いました。
- ・会場では、美味しいお茶の淹れ方講座やアレンジティーの作り方講座を開催するとともに、煎茶や玉露を来場者に提供しました。
- ・県では、今後も八女茶のロゴマークを活用し、関係者一体となったPRにより「福岡の八女茶」のブランド力強化を進めます。



お茶の淹れ方講座と
「福岡の八女茶」ロゴマーク

トピック

○ 「全国和牛能力共進会」への出品を契機に「博多和牛」をPR

- ・「和牛のオリンピック」とも呼ばれる「全国和牛能力共進会」は、5年に1度、全国の優秀な和牛を一堂に集め、肉質や種牛の体格の良さを競う大会です。
- ・令和4年10月に鹿児島県で開催された第12回全国和牛能力共進会では、「肉牛の部」において、本県から出品した「博多和牛」が初めて、最高賞となる優等賞に入賞しました。また、初出品した「種牛の部」においても、1等賞に入賞しました。
- ・共進会会場では、博多和牛販売促進協議会が「博多和牛」の試食を行い、来場者に向けて「博多和牛」のPRを行いました。
- ・また、共進会の会期に合わせた4年9月から11月の期間、県内飲食店26店舗で「博多和牛」を使用したメニューを提供するとともに、12月にはJR博多駅において共進会上位入賞を記念した「博多和牛フェア」を開催するなど、「博多和牛」の認知度向上に取り組みました。



優等賞を受賞した「博多和牛」



JR博多駅で開催した
「博多和牛フェア」

(新商品の開発・販売支援により県産米粉の需要を拡大)

- ・輸入小麦の価格高騰を受け、小麦の代替として米粉に注目が集まっています。
- ・このため県では、県産米粉の認知度向上と利用拡大に向けて、県内の食品製造事業者による県産米粉を使用した新商品の開発を支援しました。
- ・新商品開発の企画に応募した38事業者のうち、一次審査に合格した25事業者に対して試作品の開発を支援し、その中から特に優れた6事業者に対して、新商品の製造や販売開始を支援しました。
- ・この結果、県産米粉を使用した麺やピザ生地といった新商品の販売が令和5年3月から開始されました※。

※県産米粉の新商品紹介ページURL：
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuokaken-komeko-shohin-hanbai.html>



新たに開発された米粉麺

商品名	商品説明
ぼんぼん米粉	「ボン菓子」を粉砕してブレンドした家庭用の米粉
県産米粉入りピザ生地	県産米粉用米「ふくのこ」を使用したピザ生地
博多べいめん 玄米衛	県産米粉用米「ふくのこ」を使用した無添加の米粉麺
米粉の笑笑(クスクス)、玄米米粉の笑笑(クスクス)	県産米粉を原料とした「クスクス」※
飲むお米！米粉プロテイン米にち(まいにち)たんぱく	県産米粉から作られた「ライスプロテイン」
旨味茶プレミアム ミルキーサンド、バターサンド	生地に県産米粉と八女茶を使用したミルキーサンドとバターサンド

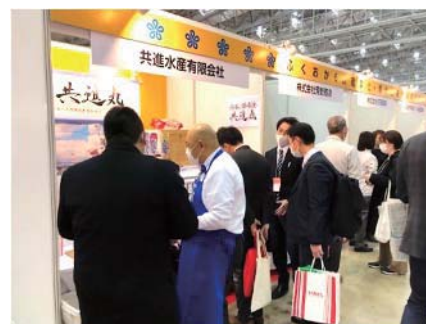
県産米粉を使った新商品の一覧

※北アフリカ発祥の直径1ミリほどのパスタ

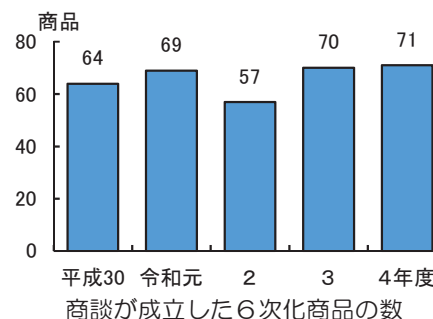
(商談会や販売会への出展支援により6次化商品の販路を拡大)

- ・県では、生産者の所得向上や県産農林水産物の魅力発信につながる6次化商品※の販路を拡大するため、商談会や販売会への出展を支援しています。
- ・令和4年度は、「Food EXPO Kyushu2022」、「スーパーマーケット・トレードショー2023」の2つの商談会への出展支援を行うとともに、福岡と東京の商業施設2か所で、PR販売会を実施しました。その結果、71商品の商談が成立しました。

※6次化商品：農林漁業と二次、三次産業が連携し、地域資源を活用した付加価値を生み出した商品



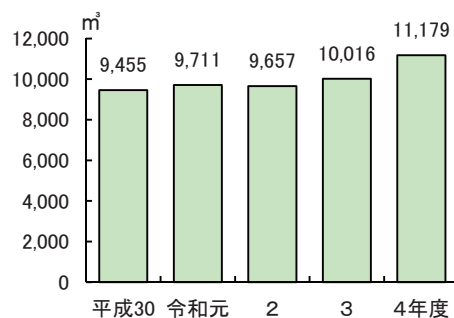
首都圏での商談会



資料：園芸振興課調べ

(建築物の木造・木質化を促進)

- ・県では、県産木材の需要拡大を図るため「福岡県内の建築物等における木材の利用の促進に関する方針」に基づき、公共及び民間施設の木造・木質化を促進しています。
- ・令和4年度は、八女警察署北山駐在所の木造化や、筑紫中央高校体育館の木質化を行いました。市町村においても、おんがみらいテラスをはじめとした施設で木造・木質化が進められました。
- ・これらの結果、4年度の公共施設等における木材利用量は前年度に比べ12%増の11,179^m³となりました。



公共建築物等における木材利用量

資料：林業振興課調べ

(中大規模の木造建築物を提案、設計できる人材を育成)

- ・県では、これまで木材が使われてこなかった、商業ビルやオフィスビルの木造化を進めるため、中大規模の木造建築物を施主に提案し、設計できる建築士を育成しています。
- ・令和4年度は、中大規模の木造建築の防耐火構造やCLTなどの新建材に関する知識・スキルを習得できる講座を開催し、県内で活動する建築士68名が受講しました。

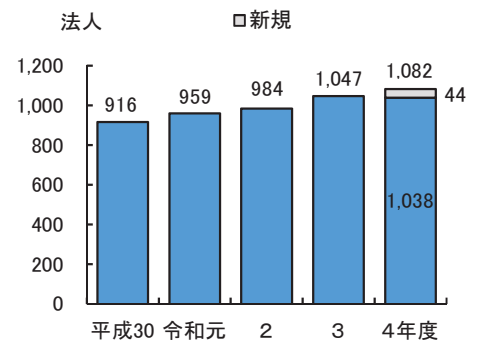


中大規模木造建築物技術者講座

3 農林水産業の次代を担う「人財」を育成

(法人化や雇用導入支援により農業経営を強化)

- ・県では、普及指導センターによる経営改善支援や税理士・中小企業診断士といった専門家の派遣に加え、就業規則の作成や社会保険の加入など、雇用に関する相談に社会保険労務士が対応する「農業の雇用・労働相談窓口」を設置し、農業経営の法人化や雇用導入を支援しています。
- ・こうした取組の成果もあり、令和4年度の新規農業法人数は44増の1,082法人となりました。



農業法人数

資料：経営技術支援課調べ

トピック

○ 先端技術をフル活用した大規模酪農経営の実践で農林水産大臣賞を受賞

- ・久留米市で酪農業を営む永田 弘^{ながたひろし}氏が、令和4年度全国優良経営体表彰^{※1}（生産技術革新部門）において、県内の酪農家としては初めて、最高位の農林水産大臣賞を受賞しました。
- ・永田氏は、平成8年に県内で最初に、フリーバーン牛舎^{※2}を導入したほか、3Dカメラを搭載した搾乳ロボットやICTを活用した牛群管理システムといった先端技術を活用し、作業の省力化や労働時間の削減に取り組んでいます。
- ・所有する3農場では、搾乳、分娩、肉用子牛育成といった農場ごとの分業体制を確立し、先進的な生産技術を活かした効率的な飼養管理による大規模経営を行っています。
- ・こうした優れた取組が高く評価され、今回の受賞につながりました。



農林水産大臣賞を受賞した永田夫妻



搾乳ロボットをはじめとする新技術を活用

※1全国優良経営体表彰：全国担い手育成総合支援協議会が、農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に関して優れた功績をあげた経営体を表彰。

※2フリーバーン牛舎：牛をつながず、自由に動き回れるスペースをもった牛舎。

(啓発セミナーの開催によりノリ養殖経営体の法人化を支援)

- ・有明海のノリ養殖は、主に家族経営であり、今後、担い手を確保していくためには、求職者の受け皿となる法人化を進めることが有効です。
- ・このため、県では、有明海漁連と連携し、法人経営の理解を推進するセミナーの開催や専門家の派遣に取り組んでいます。
- ・令和4年度は、これらのセミナーに、116名が参加し、参加者からは「法人経営の基礎が理解できた。今後、法人化した際のイメージを考えていきたい」との声が聞かれました。



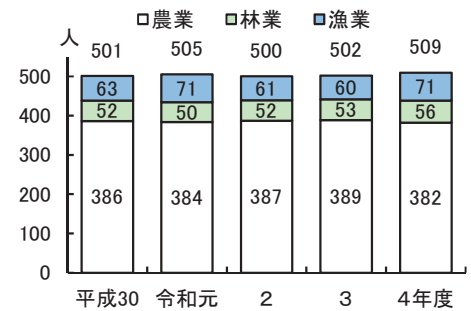
ノリ養殖経営体への啓発セミナー

(新規就業者は6年連続で500人を突破)

- ・県では、新規就業者の確保に向け、就業希望者が農林漁業への理解を深め、スムーズに就業できるよう、就業セミナーや相談会の開催といった取組を行っています。
- ・令和4年度の実業セミナー・相談会は、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催し、県内外から211人が参加しました。
- ・これらの取組の成果もあり、4年度の新規就業者は509人で、6年連続で500人を超えました。
- ・農業では、雇用就農者が145人、新規就農者が237人の合計382人に、林業では、森林組合や民間事業者への就業者が合計56人、漁業では、まき網をはじめとする漁船漁業やノリ養殖をはじめとする養殖漁業に合計71人が就業しました。



就業セミナー・相談会



新規就業者数

資料：後継人材育成室、林業振興課、水産振興課調べ

(農業大学の機能を強化し、技術力のある人材を育成)

- ・県では、農業分野におけるデジタル技術の活用を積極的に推進するため、農業大学の機能を強化し、デジタル技術に対応できる人材育成を進めています。
- ・令和4年度は、農業DX対応型ハウス※において、環境データ分析や遠隔制御技術を活用したいちごの生育管理などを学ぶ、農業DXの実習を開始しました。
- ・学生からは「将来、就農したら使ってみたい」との声が聞かれています。



タブレット端末を活用した実習

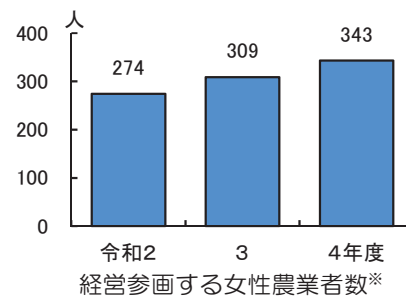
※農業DX対応型ハウス：クラウドを活用したハウス内の遠隔監視・制御といった技術を導入したハウス

(新品目導入により女性認定農業者を育成)

- ・本県の農業従事者の4割は女性であるものの、認定農業者に占める女性の割合は低い状況です。
- ・このため、県では、令和4年度から、認定農業者を目指す女性を対象に、新たな品目の導入に要する経費を支援するとともに、認定農業者となるために必要な経営改善計画の作成支援を開始しています。
- ・4年度は、10名の女性農業者が、麦やアスパラガス、畑地性カラー（花き）といった新たな品目の生産を始めるとともに、5年度中の認定を目指し経営改善計画を作成しました。
- ・女性からは、「導入品目の主担当として適期管理ができるよう、大型農業機械の免許を取得していきたい」、「経営分析を行い、今後の戦略や所得拡大に活かしたい」などの意欲的な声が聞かれました。



新たに導入された品目（花き）

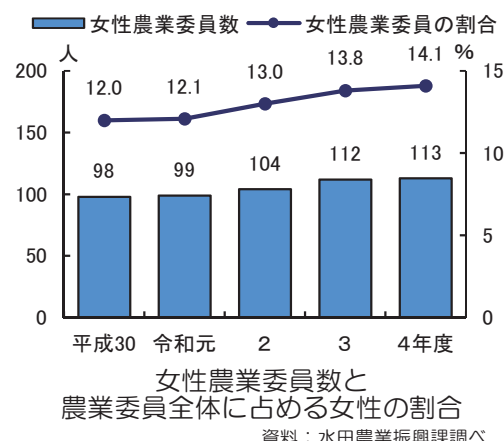


資料：経営技術支援課調べ

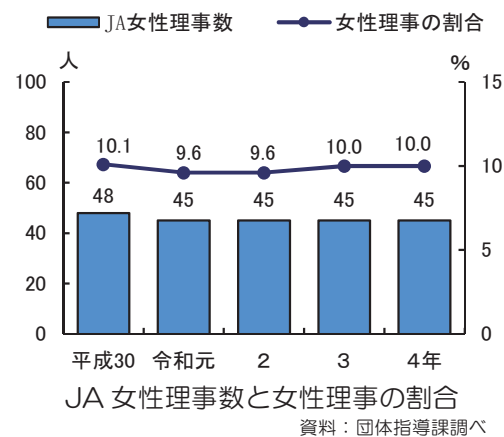
※女性認定農業者及び農業法人の女性役員数

(女性農業者の社会参画を推進)

- ・女性農業委員やJAグループの女性理事は、女性農業者の相談相手として、また、地域農業の支えとして重要な役割を果たしています。
- ・このため、県では、県農業会議や「農業委員会女性ネットワーク」と連携し、農業委員が改選される市町村に対しては女性の登用を、JAグループに対しては女性理事の登用を要請しました。
- ・この結果、令和4年度の女性農業委員数は113人、農業委員全体に占める割合は14%となりました。また、JAグループの女性理事数は前年と同数の45名で、理事450名の10%でした。



資料：水田農業振興課調べ



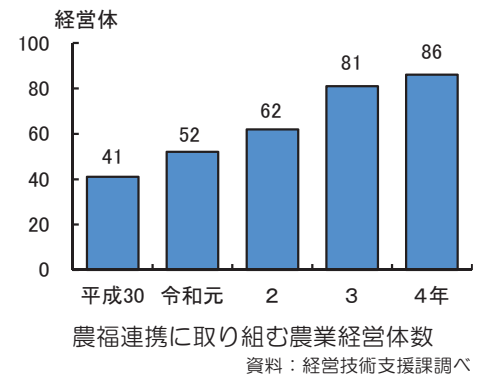
資料：団体指導課調べ

(農業者の取り組む農福連携を支援)

- ・農福連携は、障がいのある人の活躍の場を広げるだけでなく、人手を確保したい農業者にとっても労働力の確保につながる取組です。
- ・しかしながら、農業者には、障がいに関する知識が不足しているため、どんな作業をどのくらい依頼できるかといった不安があります。
- ・このため、県では、農福連携を志向する農業者を対象に、障がい福祉の概要に加え、実践事例について学ぶ講座を開催するなど、農福連携への理解を深める取組を進めています。
- ・令和4年度は、16名の農業者が講座に参加し、農福連携のメリットや障がいのある方とのコミュニケーションについて理解を深めるとともに、農福連携の実践に向けて、個々の障がいの特性に配慮した農作業マニュアルを作成しました。
- ・受講生からは、「農福連携に前向きに取り組む、経営の改善に活かしていきたい」という感想が聞かれました。



農福連携の取組を視察



4 持続可能な農林水産業に向けワンヘルスを推進

(全国初！農林水産物のワンヘルス認証制度をスタート)

- ・県では、ワンヘルスの実践が次世代の食と農につながることから、農林水産業におけるワンヘルスの取組を進めています。
- ・その一環として、令和4年9月、食の安全・安心や環境への配慮など、ワンヘルスの理念に沿って生産・販売された農林水産物や加工品を認証する「福岡県ワンヘルス認証制度」を、全国で初めて創設しました。
- ・また、10月には、認証申請や認証農林水産物の取組内容が閲覧できる専用サイトを開設しました。
- ・さらに、県農林水産まつりや県内量販店での認証農林水産物のPR販売に加え、県広報テレビ番組や博多バスターミナル、地下鉄天神駅のデジタルサイネージ広告を活用し、認証制度と認証農林水産物のPRを実施しました。
- ・この制度には、22件・2,394経営体の43品目が認証されています（令和5年3月末現在）。

※「福岡県ワンヘルス認証」ホームページURL：
<https://onehealth-certify.pref.fukuoka.lg.jp>



認証マーク



認証ホームページ

トピック

○ 「福岡県農林水産まつり」でワンヘルスをPR

- ・令和4年11月12日(土)、13日(日)に福岡市営地行中央公園で開催された「福岡県農林水産まつり」において、ワンヘルス認証制度や認証農林水産物をPRしました。
- ・今回は、第21回アジア獣医師会連合大会と同時に開催されており、国内をはじめ世界各国からの来場者に対し、認証制度の内容を紹介するとともに、認証農林水産物の販売や実際に料理を食べていただくことで、その魅力を発信しました。



農林水産まつり



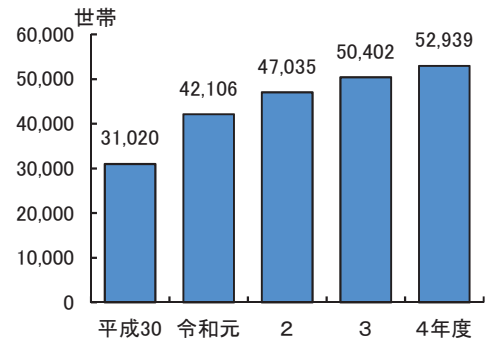
認証農産物の販売

(応援団づくりや食育・地産地消月間イベント開催により地産地消を推進)

- ・県では、県民の農林水産業への理解促進を図るため、県産農林水産物を積極的に利用する「地産地消応援ファミリー」、「地産地消応援の店」、「農林漁業応援団体」などの「ふくおか農林漁業応援団」づくりを推進しています。
- ・令和4年度は、農林水産まつりや学校給食フェアといったイベントにおいて、県民に「応援ファミリー」への登録を呼びかけるとともに、飲食店や企業に対してそれぞれ「応援の店」、「応援団体」への加入を働きかけました。
- ・また、11月に福岡市で開催した「食育・地産地消月間メインイベント」では、農林水産業の振興や地産地消に特に貢献した「応援団体」2団体を表彰するとともに、食に関するトークショーや地産地消マルシェ、野菜ブーケづくりといったイベントを通じ、県産農林水産物の魅力を広く県民にPRしました。
- ・これらの取組により、「応援ファミリー」は52,939世帯、「応援の店」は1,831店、「応援団体」は817団体に拡大するなど、地産地消の輪が広がっています。

※「ふくおか農林漁業応援団」ホームページURL:

<https://f-ouen.com/ouen/family/>



「応援ファミリー」登録数

資料：食の安全・地産地消課調べ



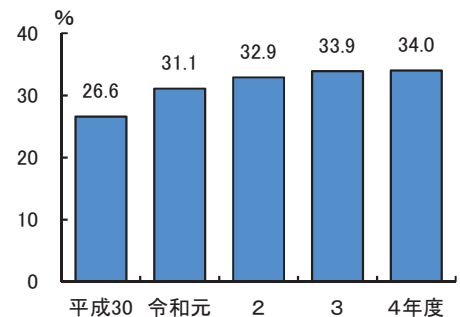
「農林漁業応援団体」表彰式



「食育・地産地消月間メインイベント」でのステージイベント

(学校給食での県産農林水産物の利用が着実に進む)

- ・県では、「夢つくし」や「元気つくし」の導入支援をはじめ、学校給食での県産農林水産物の利用を促進しています。
- ・令和4年度は、県産農林水産物の利用率が伸び悩む地域を中心に、学校給食関係者を対象として、地元農林水産物の利用が拡大した地域の優良事例を紹介するセミナーを開催しました。
- ・これらの取組により、令和4年度の学校給食での県産農林水産物の利用率は34%となりました。



学校給食における県産農林水産物の利用率

資料：食の安全・地産地消課調べ

(ワンヘルスを体感できる、「ワンヘルスの森 四王寺」を整備)

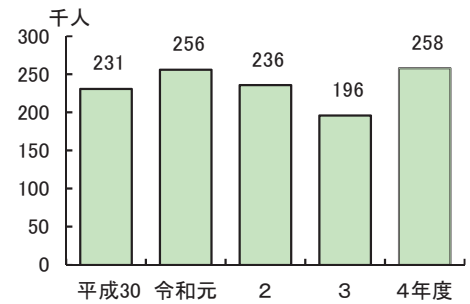
- ・県では、「人と動物の健康と環境の健全性は一つ」というワンヘルスの理念を実感できる場として、福岡県立四王寺県民の森を「ワンヘルスの森 四王寺」として整備しています。
- ・令和4年度は、学習展示館を「ワンヘルスの森ミュージアム[※]」としてリニューアルし、令和4年11月10日から一般開放しました。同日には、アジア獣医師会連合（F A V A）の役員がワンヘルスの森に視察に訪れ、ミュージアムを見学するとともに、森林浴や記念植樹を行いました。
- ・また、5年1月からは、ワンヘルスの理念や森について解説するワンヘルスガイドと一緒に森林浴を体験できるツアーを開始しました。

※ワンヘルスの森ミュージアム

森に生息する動植物の解説や樹木の標本、森林浴による健康増進効果などを学べるパネル等を展示。



ワンヘルスの森ミュージアム



「ワンヘルスの森」来場者数

資料：林業振興課調べ

トピック

○ 九州初の「おもちゃ美術館」がオープン

- ・令和4年4月に開館した「福岡おもちゃ美術館」^{※1}は、木製のおもちゃで遊ぶことにより、五感で木の魅力を体感できる施設です。
- ・県では、「福岡おもちゃ美術館」の開設にあたり、県産木材を利用した内装の木質化を支援しており、この施設は木材をふんだんに使った木のぬくもりがあふれる空間となっています。
- ・今後は、この施設と連携してワンヘルスサポーター^{※2}をはじめとする人材を育成し、木育を通じてワンヘルスを推進していきます。



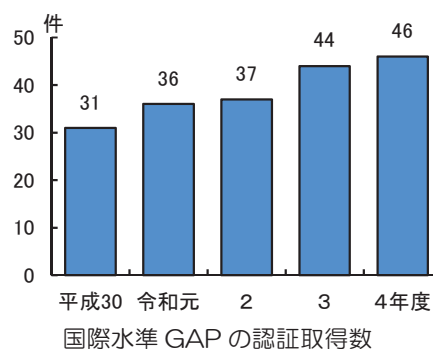
福岡おもちゃ美術館

※1 福岡おもちゃ美術館：NPO法人芸術と遊び創造協会が運営・監修。全国11箇所が開館。

※2 ワンヘルスサポーター：木育活動を通じ、「ワンヘルスの森 四王寺」の魅力を発信する人材。

(国際水準GAPの認証取得は46件に拡大)

- ・県では、安全で持続可能な農業の実践に向けて、GLOBALG.A.P.をはじめとする国際水準GAP※の認証取得を目指す農業者を支援しています。
- ・令和4年度は、審査費用や環境整備といった認証取得に要する経費を支援するとともに、農場管理の見える化や、食品安全に係るリスク評価を学ぶ「国際水準GAPレベルアップ研修会」を実施しました。
- ・その結果、4年度の認証取得数は、前年度に比べ2件増加し、46件となりました。また、県内に9つある全ての農業高校が、国際水準GAPに取り組む契機となる福岡県GAP認証を取得しました。



資料：食の安全・地産地消課調べ

※GAP：Good Agricultural Practiceの略で、農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動であり、食品の安全性向上や農業経営の改善や効率化等に資する取組。

(動物保健衛生所の基本構想を策定)

- ・県では、動物の保健衛生に一元的に取り組む動物保健衛生所の設置に向け、業務内容や施設整備の基本方針を具体化するための基本構想を策定しました。
- ・新たに設置する動物保健衛生所では、筑後家畜保健衛生所の業務を継続するとともに、人獣共通感染症や薬剤耐性菌、家畜伝染病の調査・研究を行います。
- ・また、同じ敷地に整備予定の保健環境研究所をはじめとする関係機関と連携して、ワンヘルスの普及啓発を進めます。
- ・施設では、家畜用検査室と家畜以外の動物用検査室を完全に分離し、野生動物の病原体が畜産農場に持ち込まれることを徹底的に防止します。
- ・今後は、施設の建設や人員の確保を進め、令和9年度中の開設を目指します。



動物保健衛生所イメージ図

(専門機関への職員派遣により人材を育成)

- ・現在、整備を進めている動物保健衛生所では、家畜に加え愛玩・展示動物や野生動物の保健衛生業務を行います。
- ・このため、県では、家畜保健衛生所の職員がこれらの業務に対応できるよう、必要となる知識や技術を習得するための研修を実施しています。
- ・令和4年度は、野生動物の疾病及び人獣共通感染症の研修のため、連携する5か所の専門機関に、職員15名を派遣しました。また、野生動物の専門家による、「ワンヘルス推進のために必要な野生動物対策について」と題した講義を38名が受講しました。

人材育成のための連携専門機関

大学	北海道大学、山口大学 日本獣医生命科学大学 岐阜大学、酪農学園大学
行政 機関	国立感染症研究所 農研機構（動物衛生研究部門）
団体	日本野生動物医学会

○ 高病原性鳥インフルエンザが県内で4件発生

- ・令和4年度は、10月下旬という例年より早い時期に他県において高病原性鳥インフルエンザの感染が確認され、その後も全国的に猛威をふるいました。
- ・そのような中、本県でも12月に糸島市の養鶏場で2件、5年1月に古賀市のエミュー飼養農場、3月に福岡市の養鶏場で1件と計4件の高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されました。
- ・県では、市や農業協同組合との連携に加え、福岡市での発生の際には、自衛隊の派遣要請も行い、24時間体制で農場の防疫作業を実施しました。4件合計で延べ5,500名以上が防疫作業に従事し、処分した家きん等は、埋却だけでなく焼却による処理も行いました。
- ・また、各発生農場から半径10km以内の範囲で鶏や卵の移動・搬出を制限するとともに、車両消毒ポイントを計12か所設置して、通行する畜産関係車両の消毒を行い、ウイルスの拡散を防止しました。
- ・さらに、まん延防止のため、県内すべての養鶏農場に対し、家畜伝染病予防法に基づき消毒を実施するよう告示し、消石灰と消毒薬を配付しました。
- ・引き続き、畜産農家に対して飼養衛生管理基準の遵守徹底を指導することで、鳥インフルエンザをはじめとした家畜伝染病の発生予防に取り組みます。



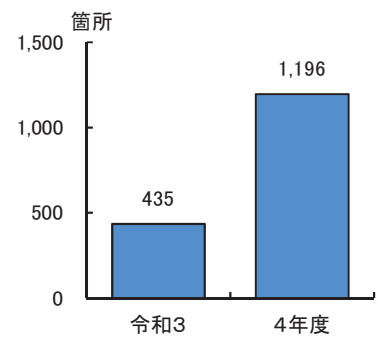
発生農場での防除作業

5 安心して住み続けられる農山漁村づくりを推進

(農業水利施設や治山施設、漁港施設の計画的な整備で防災機能を強化)

- ・近年頻発する気象災害によるリスクを低減していくためには、農業水利施設や治山施設、漁港施設の防災機能を維持していくことが重要です。
- ・このため、県では、施設の中長期的な維持管理について定めた機能保全計画を策定し、計画的な整備を行っています。
- ・また、防災重点農業用ため池^{*}の防災工事を計画的に推進するため、市町村が行うため池の劣化状況評価に技術的な支援を行っています。
- ・令和4年度は、49市町村の計761箇所のため池で調査を実施し、堤体の変状や漏水、地震や豪雨による決壊の危険性について評価しました。

^{*}防災重点農業用ため池:決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池



防災重点農業用ため池の劣化状況評価の実施状況(累計)

資料:農山漁村振興課調べ

(都市住民による農作業や地域の取組を支援)

- ・県では、魅力ある中山間地域を支えるため、地域住民と一緒に活動する都市住民を「中山間応援サポーター」として登録しています。
- ・令和4年度は、八女市でのシャクナゲの花がら摘み、東峰村での棚田ライトアップイベントの準備といった、6市町村、計13回の地域活動にサポーターの参加を呼びかけ、159人が参加しました。
- ・さらに、こうした地域で収穫された農産物やその加工品を中心に販売する「ちゅう・さん・かんマルシェ」を年3回県庁ロビーで開催し、中山間地域の魅力を発信するとともに、サポーターへの登録を呼びかけました。また、ホームページ^{*}やSNSでの募集にも取り組んだ結果、サポーター数は5年3月末で2,603人となりました。

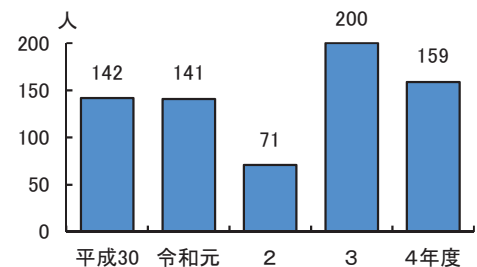
^{*}中山間応援サポーターホームページURL:
<https://f-ouen.com/chusankan/>



棚田ライトアップイベント準備



ちゅう・さん・かんマルシェ



サポーター活動への参加人数

資料:農山漁村振興課調べ

(中山間地域の担い手確保に向け半農半Xを推進)

- ・県では、中山間地域の新たな担い手の確保に向け、農業を営みながら他の仕事にも携わる半農半Xというライフスタイルを推進しています。
- ・令和4年度は、半農半Xに興味を持つ方と、半農半Xの受入れを進める地域協議会*をマッチングするため、「福岡県半農半X相談会」を福岡市で開催しました。
- ・相談会では、各協議会の紹介や実際に半農半Xを行う方の事例紹介をはじめ、協議会が個別相談に対応しました。
- ・参加者からは「半農半Xの始め方について勉強になった」、「主婦業をしながら農業を始めてみようと思う」といった声が聞かれました。

※内野地区中山間地域協議会（福岡市早良区）、添田町就農支援推進協議会、姫治地域協議会（うきは市）、合馬たけのこ生産者育成センター（北九州市）、香春町半農・半X協議会の5団体



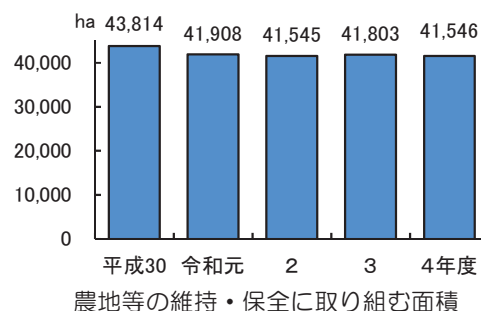
相談会の募集チラシ



福岡県半農半X相談会

(活動組織が行う、農地や水利施設の保全活動を支援)

- ・農業や農村が持つ多面的機能を維持発揮するには、農地や水利施設の継続的な保全活動が不可欠です。
- ・このため、県では、多面的機能支払制度と中山間地域等直接支払制度を活用し、水路の泥上げや農道の草刈り、農地の維持・管理といった保全活動を行う活動組織を支援しています。
- ・令和4年度は、41,546haにおいて保全活動が実施されました。あわせて、活動組織が行う取組の充実を図るため、福岡県農地・水・環境保全協議会と連携し、草刈り機の使用に関する安全対策や保全活動の優良事例を紹介する研修用DVDを作成し、全ての活動組織に配布しました。
- ・また、11月には上毛町で水路補修研修会を開催し、35人の参加者が水路の補修技術を学びました。



農地等の維持・保全に取り組む面積

資料：農山漁村振興課調べ



水路補修研修会

(公益的機能の持続的な発揮に向けた森林整備を推進)

- ・県では、公益的機能を持続的に発揮できる森林を育てるため、福岡県森林環境税を活用して荒廃の恐れのある森林の整備に取り組んでいます。
- ・令和4年度は、強度間伐[※]1,400ha、広葉樹植栽25.4haを実施した結果、整備面積は1,462haとなりました。
- ・また、平成30年度からスタートした第Ⅱ期事業における森林整備の累計面積は7,211haとなり、うち強度間伐の面積は、6,678haとなりました。

※強度間伐：間伐率を通常より高く設定した間伐のこと。間伐率は、災害を誘発することがないように、一律ではなく現地に応じて適切に設定している。



強度間伐後の林内

強度間伐の実施面積

区分	平成30	令和元	2	3	4年度	計
森林整備	1,114	1,482	1,554	1,599	1,462	7,211
うち強度間伐	850	1,396	1,451	1,581	1,400	6,678

注1：森林整備には間伐、広葉樹植栽を含む。

資料：林業振興課調べ

トピック

○福岡県森林環境税を活用した森林整備の継続を決定

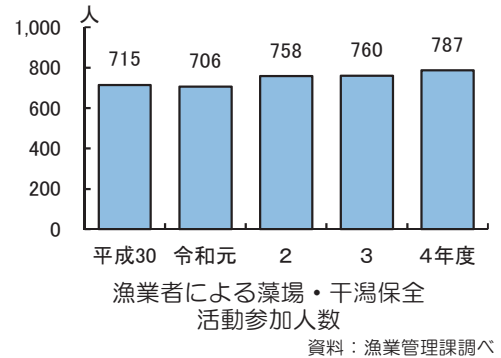
- ・福岡県森林環境税は、令和4年度に導入から15年目を迎えたことから、福岡県森林環境税条例の規定に基づき、外部有識者で構成される「福岡県森林環境税検討委員会」において、第Ⅱ期事業の施行状況や社会経済情勢の推移に関する検証が行われました。
- ・検証の結果、自然災害の多発化・激甚化といった状況を踏まえ、「今後も森林環境税事業を継続していくことが適当」とする提言が県になされました。
- ・県では、提言を踏まえ、森林の有する公益的機能の持続的な発揮に向け、令和5年度以降も福岡県森林環境税を継続し、森林荒廃の未然防止の取組を進めていくこととしています。



福岡県森林環境税検討委員会

(県民に藻場・干潟の環境保全の重要性を啓発)

- ・県では、漁業者グループが実施する藻場や干潟の環境保全活動を支援しており、令和4年度は、23グループ、787人が参加しました。
- ・また、藻場や干潟が産卵や稚魚の育成場となることや、水質を浄化する機能を持つことを啓発するため、夏休み期間中に親子参加型の海浜清掃や漂着物を使った工作イベントを開催しました。
- ・参加者からは、「拾った貝殻やプラスチックの破片を使った工作が楽しかった」「ずっときれいな海であってほしい」といった声が寄せられました。



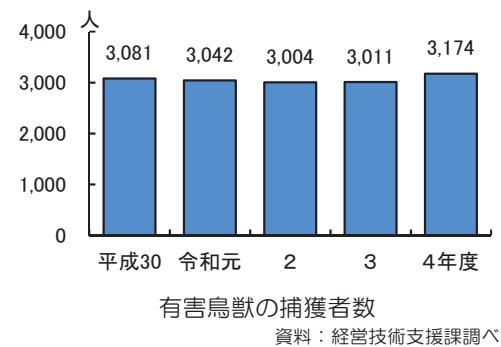
親子参加型イベント

(狩猟者の育成と県による広域的な取組で捕獲体制を強化)

- ・県では、有害鳥獣の捕獲体制を強化するため、令和4年度から、ベテランの狩猟者が、新規狩猟免許取得者を対象に、狩猟現場においてマンツーマンで指導を行う取組を開始しました。
- ・研修では、野生鳥獣の痕跡の見方といった効率的な捕獲のポイントや、わな・銃の実地指導、捕獲個体の一次処理に関する講義と実習を行い、県内で46名の捕獲者を育成しました。
- ・また、鳥獣は広域的に分布、移動しているため、県が主体となって市町村域を越えた広域的な捕獲を実施し、1,168頭のイノシシ・シカを捕獲しました。



マンツーマン研修（はこわなの取扱）



(野生動物との棲み分けを図る緩衝林の整備を推進)

- ・近年、人の手が入らなくなった里山は野生動物が隠れやすい藪のようになっており、動物が人の生活圏まで侵入しやすい状態となっています。このため、人と野生動物の距離が近くなり、動物による人への威嚇や農林業被害が発生しています。
- ・県では、こうした里山において、人と野生動物の棲み分けを図るため、不要木を除去し、野生動物が身を隠すことができない見通しの良い緩衝林（緩衝地帯）の整備を進めています。
- ・令和4年度は、岡垣町において、イノシシの生息調査を実施するとともに、生息密度が高く被害も多い地域をモデル地区とし、町が行う1.2haの雑草木の伐採を支援しました。その結果、整備された緩衝林では、イノシシの出没回数が整備前に比べ大幅に減少していることが確認できました。



緩衝林のイメージ



(整備前) (整備後)
緩衝林の整備

○ 令和4年度に表彰行事で受賞された方々

農業

全国・ 地域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	令和4年度農事功績表彰	農事功績者 緑白綬有功章	行橋市	大田 完治
	令和4年度全国優良経営体表彰	生産技術革新部門 農林水産大臣賞	久留米市	永田 弘
	令和4年度全国優良経営体表彰	販売革新部門 経営局長賞	みやま市	杉本 佑貴
	令和4年度全国麦作共励会	農家の部 全国農業協同組合中央会会長賞	宗像市	清水 陽介
	令和4年度全国豆類経営改善共励会	大豆家族経営の部 全国農業協同組合連合会経営管理委員会 会長賞	うきは市	野上 隆行
	令和4年度全国豆類経営改善共励会	大豆集団の部 全国農業協同組合中央会会長賞	筑後市	農事組合法人 富久
	第76回全国茶品評会	玉露の部 農林水産省農産局長賞	八女市	宮原 義昭
	第76回全国茶品評会	煎茶4kgの部 農林水産省農産局長賞	八女市	農事組合法人 八女美緑園製茶 代表 江島 一信
	第12回全国和牛能力共進会	第8区去勢肥育牛 優等賞	筑紫野市	平山 英一
	第12回全国和牛能力共進会	第8区去勢肥育牛 1等賞	糸島市	株式会社 長浦牧場
	第12回全国和牛能力共進会	第2区若雌の1 2等賞	久留米市	大石 昌史
	第12回全国和牛能力共進会	第3区若雌の2 1等賞	糸島市	株式会社 木村牧場
県域	令和4年度福岡県麦作共励会	農家の部 福岡県知事賞	岡垣町	俵口 拓人
	令和4年度福岡県麦作共励会	農家の部 福岡県知事賞	上毛町	荒牧 弘敏
	令和4年度福岡県麦作共励会	集団の部 福岡県知事賞	筑紫野市	農事組合法人 西小田
	令和4年度福岡県麦作共励会	集団の部 福岡県知事賞	久留米市	農事組合法人 やまかわ太郎
	令和4年度福岡県花き品評会	産物の部 農林水産大臣賞	久留米市	檜原 道博
	令和4年度福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 農林水産大臣賞	八女市	加藤 幸一
	令和4年度福岡県果樹苗ほ品評会	農林水産大臣賞	久留米市	古賀 繁喜、古賀 絵理奈
	令和4年度福岡県茶業共進会	玉露の部 農林水産大臣賞	八女市	グリーンティー日向神 田島 隆光
	令和4年度福岡県茶業共進会	煎茶の部 農林水産大臣賞	八女市	樋口 龍也
	令和4年度福岡県茶業共進会	玉露園の部 農林水産大臣賞	八女市	倉住 健吾
	令和4年度福岡県茶業共進会	煎茶園の部 農林水産大臣賞	八女市	郷田 篤
	第58回福岡県肉畜共進会	和牛の部 農林水産大臣賞・福岡県知事賞	筑紫野市	三宅 静代
	第58回福岡県肉畜共進会	国産牛の部 九州農政局長賞・福岡県知事賞	豊前市	吉田 努
	第58回福岡県肉畜共進会	肉豚の部 農林水産省畜産局長賞・福岡県知事賞	みやま市	池田 幸弘

全国・ 地域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
県域	令和4年度ふくおか6次化商品セレクション	福岡県知事賞	築上町	合同会社豊築マルシェモンステラ
	令和4年度ふくおか6次化商品セレクション	福岡県知事賞	福岡市	株式会社糸島みるくぶらんど
	福岡県農林業団体等功労者表彰	福岡県知事賞	春日市	白水 清博
	令和4年度アスバラガス生産振興共励会	福岡県知事賞	朝倉市	森部 博幸
	第45回筑後地区なす立毛品評会	福岡県知事賞	みやま市	久富 大介
	博多あまおう20周年記念大会	福岡県知事賞	柳川市	JA柳川いちご部会
	ふくおか農林漁業応援団体表彰	福岡県知事賞	福岡市	特定非営利活動法人 里まちサイクルコミュニティ
	ふくおか農林漁業応援団体表彰	福岡県知事賞	福岡市	株式会社Mizkan九州支店
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	福岡市立 舞松原小学校 小学1年生 山田 隆太郎
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	岡垣町	岡垣町立 戸切小学校 小学2年生 佐藤 実織
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	北九州市	私立 明治学園小学校 小学3年生 能美 にな
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	福岡市立 七隈小学校 小学4年生 川浪 葉那
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	福岡市立 若宮小学校 小学5年生 照井 優人
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	国立大学法人 福岡教育大学附属福岡小学校 小学6年生 小山 一織
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	北九州市	北九州市立 熊西中学校 中学1年生 矢野 壮哉
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	福岡市	私立 中村学園三陽中学校 中学2年生 谷口 真太
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	個人賞の部 福岡県知事賞	北九州市	北九州市立 熊西中学校 中学3年生 高松 さくら
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	学校賞の部 福岡県知事賞	福岡市	福岡市立 名島小学校
	第58回「JA共済」小・中学生作文コンクール	学校賞の部 福岡県知事賞	うきは市	うきは市立 浮羽中学校

林業

全国・ 地域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	第47回全国児童・生徒木工工作コンクール	小学校低中学年の部 ウッドワン賞	北九州市	北九州市立熊西小学校 3年 麻生 潤
	第47回全国児童・生徒木工工作コンクール	小学校高学年の部 ウッドワン賞	北九州市	北九州市立葛原小学校 6年 佐竹 虹架
	令和3年度全国山林苗畑品評会	林野庁長官賞	朝倉市	野口 利浩
	第45回林道維持管理コンクール	日本林道協会会長賞	八女市	八女市
県域	第47回福岡県竹林品評会	農林水産大臣賞	うきは市	佐藤 正子
	第53回福岡県椎茸品評会	乾椎茸の部 農林水産大臣賞	八女市	井上 勝則
	第53回福岡県椎茸品評会	生椎茸の部 農林水産大臣賞	八女市	井上 美佐子
	令和4年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	農林水産大臣賞	久留米市	上野 恭一
	令和4年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	農林水産省農産局長賞	田主丸町	中野 宏輝
	令和4年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	福岡県知事賞	大刀洗町	棚町 宗一
	令和4年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	福岡県知事賞	田主丸町	坂井 宏
	令和4年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	福岡県知事賞	小郡市	箴島 翔平
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	篠栗町	森の風・篠栗
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	篠栗町	若杉霊峰会
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	篠栗町	松本システムエンジニアリング株式 会社
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	福岡市	九州旅客鉄道株式会社
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	桂川町	本城 健次
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	久留米市	田島 久通
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	北九州市	NPO 法人グリーンワーク
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	添田町	油木ダムを美しくする会
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	筑後市	筑後市緑づくり推進協議会
	第73回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	築上町	宇留津自治会
	令和4年度水源の森ポスター原画コンクール	福岡県知事賞（小学校の部）	苅田町	野川 桃菜
	令和4年度水源の森ポスター原画コンクール	福岡県知事賞（中学校の部）	福岡市	田中 麗奈

全国・ 地域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
県域	第47回福岡県児童・生徒木工工作コンクール	小学校低学年の部 福岡県知事賞	北九州市	北九州市立穴生小学校 3年/1年 佐藤 ほの椀/伸一
	第47回福岡県児童・生徒木工工作コンクール	小学校高学年の部 福岡県知事賞	北九州市	北九州市立葛原小学校 6年 佐竹 虹架
	第9回福岡県木造・木質化建築賞	木造の部 大賞	福岡市	西部ガスグループ油山研修所
	第9回福岡県木造・木質化建築賞	木質化の部 大賞	東峰村	株式会社ヒタヤ 小石原事務所
	第9回福岡県木造・木質化建築賞	木造の部 優秀賞	那珂川市	南畑ビノキオ森のこども園
	第9回福岡県木造・木質化建築賞	木造の部 優秀賞	福岡市	屋根裏の家
	第9回福岡県木造・木質化建築賞	木質化の部 優秀賞	大牟田市	幼保連携型認定こども園 若草幼稚園
	第9回福岡県木造・木質化建築賞	特別賞	八女市	幸福の青い鳥
	第9回福岡県木造・木質化建築賞	特別賞	宇美町	宇美八幡宮保育園
	令和4年度福岡県青少年健全育成対策 推進本部長顕彰	福岡県知事表彰	岡垣町	岡垣町立山田小学校 緑の少年団
	第32回世界子ども愛樹祭コンクール	詩・作文の部 みどりの賞福岡県知事賞	八女市	野中 美遥
	第32回世界子ども愛樹祭コンクール	絵画の部 みどりの賞福岡県知事賞	徳島県 徳島市	三好 洋

水産業

全国・ 県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	令和4年度（第61回）農林水産祭	内閣総理大臣賞	北九州市	豊前海北部漁業協同組合恒見支所 青壮年部
	第28回全国青年・女性漁業者交流大会	農林水産大臣賞	宗像市	宗像漁業協同組合 鐘崎あまはえ縄船団
	第53回全日本総合錦鯉品評会	福岡県知事賞	北九州市	藤岡 昭正
	第39回錦鯉全国若鯉品評会	福岡県知事賞大会総合優勝2位	北九州市	田中 龍平
県域	第59回福岡県海の子児童作品展	習字の部 福岡県知事賞	柳川市	柳川市立昭代第二小学校 6年 佐藤 凜花
	第59回福岡県海の子児童作品展	図画の部 福岡県知事賞	柳川市	柳川市立大和小学校 3年 堀口 颯斗